



# 北部学園だより



こどもの日から母の日・父の日へ

2017. 5. 12.

連休が明けてようやく1日通して子どもたちの幼稚園の生活が落ち着きを見せ始めました。新しい形の認定こども園になり、丸2年を過ごしました。さまざまな形態の家族の生活を受け止める施設への変容の中で、考えさせられることが多いこの頃です。こどもの日から、来週は母の日、6月は父の日と、カレンダーは家族の記念になる一日を休日として表現しています。ほくぶ幼稚園もそれらの日々の重要性を子どもたちとともに喜びあいたいと思っています。初めての幼稚園時間(1号)を過ごしている保護者の皆様、子どもが集団生活を初めて体験された方も、改めて子どもの成長を喜ばれていることと思います。

反面社会は子どもの貧困問題を大きく取り上げていることも事実です。子どもの幸せを考え子どもたちを育てている大人の思いと、社会のどこかがずれてしまい、不幸な子ども時代を過ごす子どもが増えているということになります。

ほくぶ幼稚園では、こどもの日は別として、母の日父の日を「家族の日」というとらえ方をし、保護者の皆さんに伝えていきます。もう20年以上もそうやっているのですが、今まさに「家族の日」が大切になってきているように思います。ひとり親の家族も少なくない時代を考えても重要なことと思うところです。「各家族の在り方の多様性」にも対応していることです。それぞれの家庭ではカレンダー通りの対応をされると思いますが、ひとり親の皆様にも同じような記念日になるようご理解お願いいたします。おじいちゃんおばあちゃんも含め、子どもを見守る家族が「みんな楽しいね」と思える日であることを願うことです。

働くお父さんお母さんが増えたので、大人になった若者が「両親に感謝する日」でもあるでしょう。小さい子どもは家族と過ごす時間の大切さを、心で感じていることでしょう。5月・6月は保護者の皆様が、「子どものいる幸せ」をかみしめる月として過ごしていただけることを願うばかりです。

私園長の母も、5月5日100歳(ももじゅ・きじゅ)になりました。先日母の荷物を開いてみると、子どもの頃の写真や戦争時代のわずかな写真、母の嫁入り衣装などを見つけ、改めてその時間の長さを感じているところです。その時代を生き残った人たちは、戦争を経験し、戦後父は静岡で教師(80歳まで障害児者の指導・支援活動)、母は保育者になり、両親ともに2度と戦争時代を作ってはいけなさと、平和運動に身を投じた事に思いを馳せ感謝したところです。

## <ほくぶ幼稚園職員研修へのご理解とお願い>

認定こども園と他の保育園との違いはそう多くはありませんが、保育の質の向上に向き合うために、職員の研修が不可欠です。年数回ですが、土曜日に全職員が「共に学ぶ日」を予定しています。その日を早くお知らせいたしますので、皆様におきましては、仕事の関係を調整していただき、全職員が参加できる研修とさせていただきますようお願い致します。さっそく6月3日(土)午後から研修を予定しています。未満児は親子ふれあい活動になっていますが午後の保育都合がつけば、お休みのご協力お願いいたします。(3歳以上児も)

無理な場合は遠慮なく申し出てください。

旧園舎(昔給食室だった)

チュウリップ 2 歳児さん保育室隣に  
かわいい図書室ができました～～す!

<船島和子さんに絵本にたいする想いを伺いました>

船島絵本のおばさんは自称魔女さんです。

元北部幼稚園教諭。退職後、『清水公民館 語り手の会』で30年以上活躍され(勤務中も継続)、地域の保育園・小学校・児童自立支援施設などで子どもたちへの読み聞かせをされています。今年は特にほくぶ幼稚園の絵本研究・読み聞かせに力を入れていただき、図書室づくりに毎日通ってくださっています。

えほんの部屋へようこそ



♡待ちに待った絵本の部屋が遂に完成しました。

これまで、多目的室に限りあるスペースに出せる絵本だけが置かれていました。ほくぶ幼稚園には、様々なジャンルの良い絵本がこれまでの年月をかけてたくさん購入され、(あるいは寄付)子どもたちや保護者の皆さんを楽しませてくれました。それらのたくさんの絵本たちも今回一堂に集まり、ステキな居場所が出来ました。絵本だけの部屋なのです。扉を開けると、それはステキな空間です。本棚・壁ぎわにズラリと並べられた絵本・絵本・絵本…床に座ってまわりを見渡すと、それは本当に癒しの空間!現実の世界を忘れてしまいそうです。

(大人でも…)

1500冊余りの絵本たちが「見てちょうだい!」と言っているかの様です。

子どもたちは、お話が好き、絵本が大好きです。絵本は多くの恵みをもたらしてくれると思います。同時に、子どもと一緒に楽しむ大人にも同じくらいの恵みをもたらしてくれると思います。にぎやかで忙しい日々をお過ごしのことと思いますが、ほんのひととき5分でも10分でもテレビを消して、静けさの中でゆっくり、穏やかに子どもさんと一緒に絵本を楽しみませんか!きっと心豊かになれると思います。1500冊の絵本たちが皆さまを待っています。どうぞ、是非、図書室をのぞいて見て下さい。(船島 和子)

今年のはじめての絵本の読み聞かせの会… 5月10日

ホッと、できる場所になれたらいいな～

「図書室ができれば、親子で絵本が借りられたらいいね。」「子育てカフェもつくて欲しいなあ～」「いつでも立ち寄り、絵本を読むだけでなく、子育ての話ができればいいね。」「そうだね。子育ては親の思い通りにはならないし、悩んだよね。」「おばあちゃん・おじいちゃん読み聞かせ会もいいなあ…」「園児だけでなく、地域の親子が利用できたらいいね。」など夢は大きく膨らんでいます。「私も読み聞かせをしたい!」というOBの先生の声もあがっています。

乞うご期待を!



本日の資料配布

●年間行事計画表(案)

●『重要事項説明書』変更のお知らせ

<ほくぶ幼稚園の子育て相談会今年取り組みについて>

# お知らせ

## ことしの子育て相談会は・・・

『子どものことがちょっと、心配だから、話を聞いて欲しい!』『子育てに不安がある』など、誰かに話を聞いて欲しいという保護者の思いがある時、また気軽に身近な場所で相談できたらと希望があった時、園での『子育て相談会』を実施してきました。2015年は、熊本市の事業を利用し、発達専門家である尾道幸子先生にお願いしました。しかし、2016年度はこの事業が廃止されました。

この事業で園と関わりがあり、長年、くまもと江津湖療育医療センターの支援事業として保育園・幼稚園から高校生までのたくさんの子どもや保護者に携わりながら適切なアドバイスをされ信頼が厚い尾道幸子先生が昨年3月退職されたのをきっかけに、園独自の子育て相談会を始めることになりました。2カ月に1回の開催となりますので、ご理解よろしくお願いたします。すでに、4月は保護者からの要望があったため実施しました。

6月の日程はまだ、決まっていますが、1名の要望が出ています。相談会の内容は、園での子どもの様子を観察し、生活上育ちに必要なアドバイスと家庭での悩みを聞いていただきます。また、発達検査をすることができ、検査結果にそって具体的な支援のアドバイスもされます。

熊本市の事業でなくなったため、保護者の負担が発生することになりました。園からの補助と個人負担は3000円となっています。公費助成がほしいところですが現状難しい状況です。希望される方は、担任または副園長（木村）までお声かけください。

尾道 幸子 先生 紹介 <1949.1.1.生>

元江津湖療育園発達医療センター 地域療育部長（心理療法士）  
えづこ相談支援センター 相談支援専門員 現在も、各施設等から要請に応え活躍されています。

始まった園生活あれこれ



バスから降りて・・・

年少さん

朝からみんなで集まって・・・



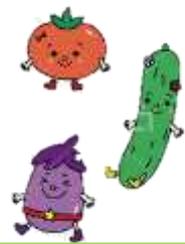
大きな子は庭で元気に遊んでいますが、10時赤ちゃんはすやすや



年中さん  
いただきます  
美味しい給食



# ★ほくぶようちえん番外活動大いに盛り上がる JAの裏にある幼稚園ファームは新装オープン



いよいよ4月がスタートして畑に野菜を植える時期が来ました。子どもの森の畑は石橋先生が管理し、新しく入った村山さんが、JAの裏の畑の管理者になって、素晴らしい農園に変わってきました。今年のファームでは給食で食べる野菜を育てようというねらいがあり、今はかぼちゃが元気に育っています。

とまと、なす、キュウリも、順調に育っています。

先日は、畑に問題が起こり、大型バスの竹森さんの力と、学童有志の力を借りて、決壊した土手の補修工事もしました。地域の方から信頼される畑にしていきたいと、理事長も含めこれからの畑に期待をしているところです。年長お泊り保育のころには、丸かじりトマトができればいいな?!と期待している園長です。

## ○ほくぶ幼稚園の学童さん

今年の学童は例年以上に人数も増えて全員で1年生から6年生までで29名になりました。4年生以上は夏休み利用がほとんどで、いつもは19名程度です。3年生まで、新1年生は14名。新しい環境や2年生以上の小学生に戸惑う姿が見られましたが、

少しずつ慣れてきて一緒に遊ぶことで仲良くなりまた学童のルールをみんなで話していくことで学童の事を知っていき安心するようになってきているようです。

最近の学童さんは小さい子の部屋に行くことを楽しんで「先生、ちょっと赤ちゃんのお世話に行ってくるね」と言って小さい子と関わっています。普段の学童とは違って優しく丁寧に抱っこをして小さい子が笑ってくれるのを喜んでいます。



## ○ミルクにチョコに・・・。よつばちゃん！

毎日お昼前になると「メェ・・・」と大きな声が幼稚園に響きます。ミルクの「ご飯ちょうだい」という声です。子ども達も多目的のテラスや土手からヤギを見に行き草を採ってきてあげたりお散歩に行つて喜んでいきます。ヤギたちも人が近づいてきたら扉に集まって散歩に連れて行つてくれるのを喜ぶ姿が見られます。赤ちゃんヤギの名前がみんなの声で決まりました。

「よつば」です。理由は幸せになってほしいという願いを込めてです。とっても活発で人懐っこく人気物！日に日に大きくなりもうすぐお母さんより大きくなりそうです。

